

村田清風

(最終回)

次建中

ただ知識を得るだけの学問は世の中の役にたかない

この学問が民の生活を豊かにする

活きた実践的学問でなくてはならない

すぐれた人は世の中のことよく知ることがよく、ならぬ

人にはそれぞれ才能がある

だが、その才能を生かして使わなければ意味がない

向き不向きを知らずとも大切である

自分を認められようとする者はダメだ

そのような者は大人物にはなれない!

今日、お上から借りた公借金(公借)は無借とし、私的方借金(内借)もお上の手により立て替へ払いをしてやる

おれ!!

村田清風一味違う!!

バンザイ

酒人には一切迷惑はかけない

弘化元年(八四四年)清風にかわり藩政をまかせられた

坪井派は「三十七年皆落仕法」の看板をはずし「公内借捌法」を実施します

三十七年などというまどろっこしい方法はやめじゃ!!

なんということだ

せうかく清風が敷いた軌道をぶちこわしおっこ!!

とこで藩は大阪、京都の御用商人にひそかに五千貫の借金をして間に合せてたのです

困った... 当然次には大借金が政府にふりかかります

今さら藩の商人に借金は頼めやせん...

甘救の町に一時はく大な金が落ちました

一万五千人の家来の内借まで立て替へ払いをするには二万貫や二万貫ですむことではありませぬ

氷戸の道館、弘道の会津の伊勢の有造館...

新しく造る明倫館は最新の設備をととえ

そこにはすぐれた人材を育成する場ではなくてはならない

嘉永元年(八四八年)藩主敬親は清風に藩学明倫館の再建を命じました

天保改革以来借財は半分以下に減ってきたというのに!

大はか者が!!

これは今というプールのことです。学舎の中にプールをつくるなど当時としては前例のないことでした。

この大きな池は何でござるか?

ここで水騎の訓練を行おうのです

諸学校のすぐれた所を参考にして立派な学舎を造ろう

甘救の町に

清風に登場を頼むことになりま

あれやれ隠居もどきん!